

令和5年度 府中市立住吉小学校学校経営報告

府中市立住吉小学校
校長 木下 和紀

本校は、第3次府中市学校教育プランに基づき、「他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」の育成を目指し、「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、その解決に当たることを経営方針としてきた。今年度は、令和4年度が新型コロナウイルス感染症による制限のため、十分な教育活動が行えなかったことから、引き続きの取組とした。以下は、今年度の各取組と保護者アンケート及び教員アンケートの結果、それをもとにしたスクールコミュニティ協議会委員による評価、さらに令和6年度に向けた方策を示す。

1 今年度の主な取り組みと保護者アンケート及び教員アンケートの結果、スクールコミュニティ協議会委員による評価

(1) 学力・体力の向上

①基礎・基本の定着

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）の定期的な実施。年間20回。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の実施。年間20回。
- ・家庭学習の充実として「住吉毎日10分運動」（学年×10分）の実施。
- ・タブレットの毎日持ち帰りによる、家庭でのEラーニングの実施。

②教師の授業力の向上

- ・授業評価（年間3回指導略案、授業公開）の実施。管理職による指導の実施。
- ・若手教員研修（4年次まで）の実施。年間4回の実施。
- ・タブレットの効果的な活用のための研修の実施。年間2回実施。

③学校全体の体力づくりを推進

- ・持久走旬間の実施
- ・年間を通しての縄跳び集会の実施
- ・休み時間の校庭使用の学年制限の解除

- 1 学校は個に応じた指導や基礎・基本の徹底等、学力の向上のための工夫・改善に努め、楽しい授業をしている。（習熟度別指導、放課後算数教室、BDT、通級指導、学習支援員の活用 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）89%】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）89%】

- 2 学校は、ICT機器を効果的に活用し、児童の学習活動に活かしている。（大型モニター、児童用タブレット端末の活用 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）89%】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）80%】

3 学校は、体力の向上や健康の増進に取り組んでいる。
(縄跳び旬間、体育朝会、保健指導、食育 など)

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 96%】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる） 88%】

<スクールコミュニティ協議会の評価>

学力向上

- ・ICTの活用については、今後考えていく部分があるように思える。
- ・教科によって、難しくて分からなくなると、学校に行きたくない（授業が楽しくない）とまらないように、もう少し目配りして教えてあげれば良いと思う。
- ・タブレット等の活用は良い面、悪い面があると思うので、各家庭の状況等も加味して活用してほしい。
- ・いろいろな子供がいる中で、担任の先生は良くしていると思う。
- ・各先生が工夫して楽しい授業に努めています。
- ・児童が慣れてきたと見受けられます。
- ・放課後算数教室等にもっと参加できるようにもって行けたら良いと思います。

体力向上

- ・多摩川の近くなので、もっと走ることをしたらいいのと思う。
- ・学校では、体育朝会や持久走等工夫をしていますが、家庭でもタブレットに夢中の方も多い様子なので、家庭でも体を動かせる工夫が必要だと思う。
- ・外で遊べるように環境も整えて積極的に上級生とも活動できるように工夫してほしい。
- ・持久走等、体力向上に取り組んでいると思います。
- ・楽しく運動できるように工夫して取り組んでいただきたいです。

<評価を受けて>

新型コロナウイルス感染症のために、休止していた放課後算数教室を再開し、2年目となった。参加児童への個別の対応が必要となるため、対象学年を2・3年生とし、人数を絞っての開催であったが、参加児童は毎回地域の方と楽しそうに算数を学習し、算数の理解を深めるとともに算数に対しての苦手意識を軽減できたのは大きかったと考える。今後、地域の方の協力者を増やすことで、対象児童の数と対象学年を増やしていき、算数に関する学力の向上を図っていく。また、家庭でのタブレット端末について進めてきてはいるが、課題も現れてきているので、より効果的な活用について、組織的に進め、基礎・基本の定着を図っていく。

新型コロナウイルス感染症のため、休み時間における校庭使用を学年別に行うなどの制限がなくなり、自由に校庭で運動ができるようになった。しかし、体力テストの平均値が東京都及び府中市の平均値よりも低い種目が多い結果はまだ変わらないので、児童の意識を高めるような組織的な対応を検討していく。また、家庭での運動の機会を確保することを引き続き保護者に呼びかけるなど行い、体力の向上に努めていく。

今年度、新型コロナウイルス感染症のため中断していた「保護者・地域の方の読み聞かせ活動」を再開することができた。毎週1回の読み聞かせの時間を児童も楽しみにするようになり、児童の読書への意欲は高まっていったと考える。

(2) 安全・安心、心の教育

①生活規律を確立

- ・規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室の実施（情報モラル、薬物への対応）
- ・テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導を実施（利用時間2時間以内）

②教師の危険予知及び回避能力の向上

- ・安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底
- ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援

③不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応

- ・サポートルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進
- ・いじめ防止基本方針に基づき、校内委員会（いじめ対策委員会）による早期解決

④防災教育を推進

- ・水害対応（府中市防災課との連携）5年生

⑤アレルギー対応を推進

- ・アレルギー対策委員会を開催 4月、9月、1月
- ・対応手順及び緊急時の連絡体制の確認・・・緊急対応訓練の実施4月
- ・要配慮児童の共通理解、共通対応（配食及びアレルギー対応等の実技研修）4月

⑥保護者への働きかけ

- ・保護者向け SNS 講座、保護者向け交通安全教室、英語絵本の読み聞かせ講習会等開催

1 学校は、防災教育及び防犯、いじめやけがの防止・対策など、子供の安心・安全の教育を進めている。（避難訓練、避難所開設訓練、交通安全教室、セーフティ教室 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）96％】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）86％】

2 学校は、一人一人の保護者や子供のニーズに応じた教育を進めている。（不登校対応、校内支援、サポートルーム、スクールカウンセラー、通級指導学級ひばり教室との連携、スマート連絡帳の活用 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）93％】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）82％】

3 学校は、特色ある教育活動を積極的に進めている。（たてわり班活動、ゲストティーチャーの活用、防災教育活動、英語活動 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）89％】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）83％】

4 学校は、児童に規範意識や思いやりの心、豊かな心を育てている。（道徳教育、児童発表、あいさつ運動、小中・地域との連携 など）

◎教員評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）89％】

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）85％】

<スクールコミュニティ協議会の評価>

- ・防災教育や交通安全教育は積極的に行っている。また、ゲストティーチャーも活用されていると思います。
- ・たてわり班活動をもっと積極的に行った方がよい。
- ・規範意識や思いやりの心の育成は、かなりよくできていると感じています。
- ・たてわり班を活用して、上級生が下級生の面倒を積極的にみるようになればいいと思います。
- ・保護者がもっともっと関心をもって講習会、訓練に参加して子供と話ができるようになればと思います。
- ・学校に行ったときに、挨拶はよくしてくれると思います。
- ・もっと地域の方々との交流、地域の文化（お囃子など）交流があればよいと思います。
- ・避難所開設訓練などは、保護者も一緒にできればいいと思います。
- ・特色ある教育を積極的に進めていると思います。地域の方ももっと協力できたらよいです。
- ・いじめについて表面化しないケースが増えています。日頃から児童の様子を十分観察しながら取り組んでいただきたいです。

<評価を受けて>

防災教育として、毎月の避難訓練において、中河原公園への避難を行ったり、児童及び教職員への予告なしで実施したりするなどの工夫を行った。その結果として、実際に緊急地震速報が流れた際には、児童は躊躇なく机の下に入り、身を守る行動がとれていた。また、3年生が起震車体験を行い、5年生が避難所開設訓練において、水害対応や心肺蘇生法を体験するなど防災意識を高める活動も引き続き行った。防犯教育として、全学年の児童が発達段階に応じた内容をセーフティ教室で学ぶとともに、日頃からの学級指導において防犯指導を随時行うことで、防犯意識を高めた。今後は、避難訓練の内容においても、より実践に近い想定を取り入れることで、児童の対応力をさらに高めていく。

いじめへの対応として、全校朝会において、いじめの禁止等の話題をする他にも、多様性、ストレスマネジメント、感謝などの話題も取り入れるなど行い、いじめの防止を図った。また、単に話を聞くよりも意識に残ることを考えて、プレゼンテーションソフトを活用して、視覚的に全校朝会を実施した。

不登校対応として、サポートルームによる学校内での居場所づくりを進め、まずはサポートルームに通うことを目指す児童、サポートルームから1日数時間の教室での授業参加を目指す児童、教室での授業を基本としながらもサポートルームで精神的な安定を図る児童など、児童一人一人の状況に応じた対応を引き続き行った。

難聴言語学級と特別支援教室の併設校である利点を活かして、校内における特別支援教育の理解を深める研修や講演会を開催した。

保護者向けに様々な講習会等を開催したが、保護者の参加者が少なかったことが課題であると感じている。どのようにすれば、学校として保護者に伝えたいことが伝わるのかを工夫・検討していく必要があると考える。

(3) 地域との連携

- ①スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動の展開
 - ・保護者向け SNS 講座、保護者向け交通安全教室、ボッチャ体験会 等の実施
 - ・地域と連携した補習授業（放課後算数教室）夏期算数教室の実施
- ②地域の防災拠点としての体制を維持、発展
 - ・地域協働の避難所開設訓練〔防災研修〕 ・ ・ 10月（5年児童参加）
 - ・スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議（避難所運営委員会）
- ③学校からの情報発信
 - ・学校経営計画・報告、住吉小だより、ホームページによる情報発信
 - ・保護者会、スクールコミュニティ協議会等での情報発信

- 1 学校は、教育目標や学校教育の内容を分かりやすく伝えている。
 (学校経営計画・報告、住吉小だより、保護者会、ホームページ など)
- ◎教員評価
 【肯定的評価 (よく当てはまる+やや当てはまる) 100%】
- ◎保護者評価
 【肯定的評価 (よく当てはまる+やや当てはまる) 94%】
- 2 学校は、児童の学習活動の様子などが保護者にしっかりと伝わるように情報を発信している。
 (住吉小だより、学年だより、学級だより、保護者会、ホームページ など)
- ◎教員評価
 【肯定的評価 (よく当てはまる+やや当てはまる) 89%】
- ◎保護者評価
 【肯定的評価 (よく当てはまる+やや当てはまる) 88%】

<スクールコミュニティ協議会の評価>

- ・学校便り等のペーパーでの連絡配布は必要だと思います。
- ・学年だより、住小だよりの配布が遅いと思います。
- ・お便りや保護者会等で学校の内容は伝わっていると思います。
- ・スマホでお便りを読むと、見逃しやみづらいところもあるので、重要なお便りは紙での配布が必要
- ・住小だより等で分かりやすく伝わっている。

<評価を受けて>

地域との連携として、スクールコミュニティ協議会を年間7回開催し、積極的に学校の情報を発信し、地域に開かれた学校を進めた。また、地域コーディネーターの方から、放課後算数教室での地域の方への協力の声掛けを行ったり、外部講師を招聘して5・6年生の SNS 講座の学習を行ったりした。また、地域の方の声掛けでの朝の読み聞かせなども進んできた。今後も地域との協働を進め、より地域の方との関りのもてる活動を進めていく。

学校の情報発信として、学校だよりやホームページ等で積極的に発信してきた。保護者会においては、短時間での効率的なコミュニケーションを目指して、保護者会の内容の工夫を行うようにしていく。今後、スマート連絡帳の効果的な活用、ホームページの充実、保護者会での発信を進めていく。

2 次年度の課題と対応策

住吉小の強みを生かして、今年度に引き続き取り組みを進めていく。

(1) 学力向上にかかわって

①個人差に応じた指導の充実(算数科を重点教科とする)

- ・ベーシックドリルタイム(BDT)を実施する。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の対象を拡大する。
- ・朝の読み聞かせを充実し、読書に親しむ機会を増やす。
- ・担任教員の指導の下、学校支援員を活用した個別学習を実施する。
- ・ICTを活用し、一人で繰り返し学習を行えるようにする。

- ・特別支援教育の視点による支援を推進する。

②地域・家庭との連携で進める取組

- ・住吉10分運動の家庭での実施を推進する。
- ・ICTの家庭学習での活用を推進する。

③学力向上への対応

- ・学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進める。
- ・地域人材を活用したICT教育を推進する。
- ・ICTを活用した授業改善をさらに推進する。

(2)安心・安全教育の推進にかかわって

①いじめ、不登校への対応

- ・規範意識、思いやりの心を醸成する「あいさつ運動」を実施する。
- ・住吉のいじめ対応基本方針をもとに危機対応研修を実施する。
- ・いじめ対策委員会において、定期的な校内の把握を行うとともに、早期解決に向けての組織的対応を充実させる。
- ・校内支援委員会を中心にした教育相談体制を維持継続する。
- ・サポートルームを活用した支援を行い、不登校の改善及び解消を図る。そのため、非常勤教員を配置し、学校支援員、子どもと家庭の支援員を活用する。
- ・ケースに応じて、教育センター、児童相談所、子育て支援タッチなどの外部機関やSC、SSWなどの人材を積極的に活用し、問題解決に当たる。
- ・情緒障害及び難聴・言語障害担当教員による障害理解教育を推進する。
- ・教員・保護者合同の障害理解研修を開催する。

③防災教育の推進

- ・不審者、地震、火災、水害などあらゆる危機を想定した避難訓練を工夫し実施する。
- ・地域連携による避難所開設訓練を実施する。10月

(3)地域・保護者との連携にかかわって

①府中版コミュニティスクールの推進

- ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、「ふるさと意識」を醸成する。
- ・地域の方によるゲストティーチャーの活用を進めていく。
- ・避難所開設訓練、放課後算数教室の充実を図るとともに、指導体制強化のため地域人材の確保に努める。

②小中連携一貫教育の推進

- ・実践交流を通して、中一ギャップの解消、不登校やいじめ対策、情報モラルの浸透、ICT（プログラミング学習を含む）の推進、外国語や道徳など新たな教科への対応等、教育課題解決のため教師の指導力を高める。